

生き方HR(11/9 6限)東日本大震災の現状についての講演

東日本大震災から8か月。テレビや新聞の報道も少なくなりましたが、被災地の復興はまだこれからであり、けっして終わったわけではありません。今回は、実際に何度も現地に入って、直接被災の状況を見、現地の人たちと話をし、ボランティアとして活躍した2人の卒業生を講師にお招きしました。感想文には、ほとんどの生徒が「感動した」「これまでの講演会の中で一番心に残った」と記しています。それほど、インパクトがあり、生徒に「自分も何かしなければ」という気持ちを起こさせた、素晴らしい講演だったと思います。遠いところ、わざわざお越しいただきありがとうございました。



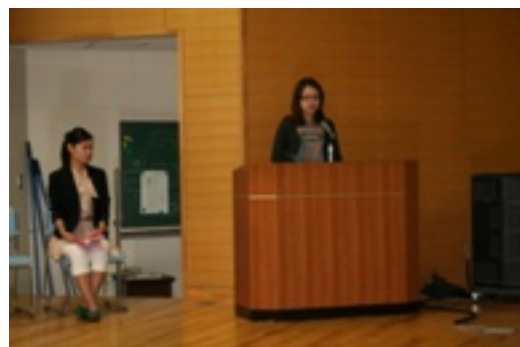
講師紹介

【松本 恵美様】

小野高等学校 56 回生卒。高校時代は放送部員としてテレビドキュメンタリー制作に従事。卒業後、上京。美容専門学校に通い、4年間、美容業界の聖地である青山エリアにてヘアメイクを主軸に勤める。2009年12月、もっといろんな面から物事に取り組みたく思い、衆議院議員事務所にて国会議員秘書に転職。

2010年12月、市民メディアアドバイザーとしてジャーナリズム業界に精通する、元TBSアナウンサー：下村健一氏が、菅内閣にて内閣審議官に抜擢されると共に、総理大臣情報発信番組『カンフルTV』の構成・制作スタッフとして、首相官邸内閣広報室にて制作業務に携わる。2011年11月、野田内閣の広報アドバイザーに就任。官邸 KIDS コンテンツや、復興便り WEB 等、立ち上げ、制作に参加。

当日は、菅総理と同行して福島県の避難所を訪れた際の映像を実際に流し、マスコミで流れている情報はごく一部であり、実際にはその周りにもっといろいろなことが起こっており、それは自分で調べてみないとわからないこと（メディアリテラシー）や、被災地の真ん中に住んでいながら原発事故が起こったことを知らない人もいた（情報難民）という話などを具体的なエピソードとともにわかりやすく話していただきました。



【藤原 綾子様】

小野高等学校 60 回生卒。高校時代は放送部員として、朗読やテレビドラマ制作で活躍。近畿高等学校総合文化祭兵庫大会では運営の中心スタッフとなる。現在大学 4 回生。

1995 年 1 月 17 日、阪神・淡路大震災当時は東灘区に在住。自ら家族共に被災し、幼いながらも当時のいろいろな記憶は新しい。それもあって、今回の 3.11 東日本大震災では、5 日後にまず東京に来て、首都圏から出すボランティアバスの段取り、マッチング、立ち上げから参加。宮城県石巻を始め、岩手県陸前高田市、大船渡市、宮古市と、沿岸部に泥掻きや瓦礫撤去のボランティアに励む。

5 月、初めて福島県に入ったあとも、「自分が何かやらなくちゃ」という思いで、何度も自腹で現地入りし、南相馬市の桜井市長から感謝の言葉を贈られる。その際、「被災地の人たちは、泣いたり、怒ったり、すねたりして、それで解決するならそうするけれど、それでは何も解決しないと思っている。それでも前を向いて歩いていかなければならない。だから、君たちは、明るく楽しんでボランティアに来て欲しい」と言われ

ボランティア活動について改めて考え直す。当日は、被災地で見た悲惨な光景や、そこで出会った人たちの悲しい表情を思い出し、言葉をつまらせる場面もあったが、生徒の心に残る素晴らしい講演をしていただきました。

